

令和5年度
業務概要



【みえ森林・林業アカデミー棟】



【ジュニアフォレスター養成講座】



【コウヨウザン植栽試験地】

三重県林業研究所
〒515-2602 三重県津市白山町二本木 3769-1
TEL : 059-262-0110 FAX : 059-262-0960

I 概 況

1. 沿革

昭和 38 年 4 月、林業の実用技術の開発に重点をおく試験研究と研究成果の普及指導の場として津市（旧一志郡）白山町二本木に三重県林業技術普及センターが設立された。昭和 39 年 3 月に同町川口に実習林用地（約 17ha）、昭和 42 年 3 月に同町川口に採種園用地（約 7ha）が購入された。昭和 48 年 12 月に本館が新築され、昭和 49 年 4 月に三重県林業技術センターと改称された。

昭和 55 年 5 月に、天皇・皇后両陛下をお迎えして第 31 回全国植樹祭お手まき行事が行われ、これを機にセンター組織の一つとして緑化センターが設置され、付属施設の展示館、樹木図鑑園、芝生広場等が整備された。平成元～5 年度に木材加工試験研究施設、平成 7 年度にきのか栽培棟が整備された。

平成 9 年度に県試験研究機関が統合され、平成 10 年 4 月に林業技術センターは農林水産部から切離され、三重県科学技術振興センター林業技術センターとなった。これに伴い林業普及指導及び林業後継者育成研修等を主業務としていた指導室は、農林水産商工部林業振興課へ移管された。また、緑化センターは廃止され、それに附属していた展示館、樹木図鑑園等は林業技術センターの管理となった。平成 13 年度に三重県科学技術振興センターの組織が再編整備され、名称は三重県科学技術振興センター林業研究部となった。平成 19 年度に科学技術振興センターが廃止となり、平成 20 年 4 月に環境森林部に帰属し、三重県林業研究所と改称された。

平成 24 年 4 月に部局の再編成により、環境森林部森林・林業分野は農林水産部に編入され、当所も農林水産部の所属となった。

平成 30 年 4 月に「三重県林業人材育成方針」に基づく新たな林業人材育成機関「みえ森林・林業アカデミー」を開講するためアカデミー運営課が設置され、平成 31 年 4 月に「みえ森林・林業アカデミー」を本格開講し、林業の既就業者を対象とした人材育成の機能が加わった。

また、令和 3 年 4 月、林業の人材育成や森林教育、研究や普及といった機能を一元化し、子どもから大人までの林業を意識した一貫した人材育成を展開するため、普及・森林教育課が設置された。

令和 5 年 3 月にみえ森林・林業アカデミーの新たな講義棟としてみえ森林・アカデミー棟が整備された。

2. 目的

(1) 試験研究

森林は、県土の 3 分の 2 を占め、木材の生産をはじめ、水源涵養や地球温暖化防止、県土保全、保健休養など様々な形で我々の生活に関わっており、森林の有するこれらの機能を持続的に活用することは大きな課題となっている。

三重県林業研究所では、「三重の森林づくり基本計画 2019」で示された研究推進方向を踏まえ、「林業研究所研究・技術開発推進方針」で定めた推進方針に従い多様化する県民のニーズに対応した研究の推進と実用的な技術の開発を行い、その成果の実用化・商品化を進めるとともに、情報の収集・提供を行うことで、森林・林業・木材産業の振興はもとより、県民生活の安全・安心の確保、環境の保全に寄与することを目指している。

また、農業、畜産、林業、水産の 4 研究所が連携して「農林水産試験研究中期ビジョン」を策定し、試験研究機関の役割と推進方向、試験研究推進のための方策等を示している。

(2) 普及・森林教育

森林所有者等に対し、林業に関する技術及び知識を普及するとともに、森林施業に関する指導等を行い、林業技術の改善、経営の合理化、森林の整備を促進し、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な育成に資することを目的に林業の普及に取り組む。

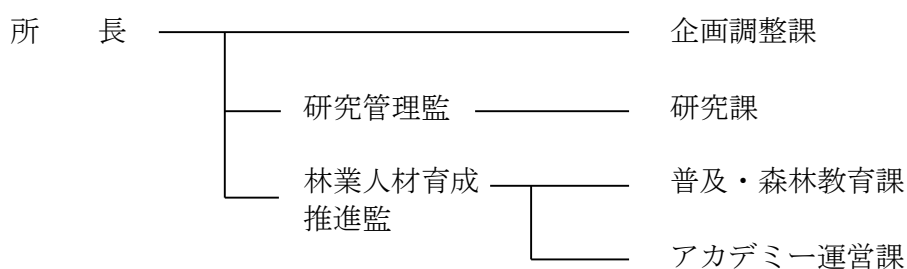
森林教育の取組を広げていくための年代別の森林教育プログラムの作成や主体的・対話的な学びの実践を取り入れた森林教育指導者の育成、森林教育に気軽にアクセスできる場や機会の拡大等に取り組み、森林・林業をはじめとするさまざまな課題に主体的に対応できる人材の育成を進める。

(3) 林業の担い手対策及び人材育成

県内の多くを占める中山間地域の振興には、主要産業である林業の活性化のための、次代を担う林業人材の育成が重要課題である。

このことから、有識者や林業・木材産業関係者からなる検討会を設置して議論し、平成 29 年 3 月に「三重県林業人材育成方針」を策定した。この方針や県内関係業界などとの意見交換の結果を踏まえ、新たな林業人材育成機関「みえ森林・林業アカデミー」を設置し、新たな視点と多様な経営感覚を持ち、中山間地域の活性化を担う林業人材の育成を行っている。

3. 組 織



4. 職 員

	所 長	福岡 秀哉
	総括研究員兼研究管理監	西井 孝文
	林業人材育成推進監兼課長	安藤 努
企画調整課	副参事兼課長	中峯 一
	課長代理	植田 有美
	主 幹	浅井 俊次
	主 事	中村 有希
研究課	技 師	竹内 春仁
	主幹研究員兼課長	島田 博匡
	主幹研究員兼課長代理	中山 伸吾
	主査研究員兼課長代理	海津 江里
	主査研究員	山中 豪
	主任研究員	川島 直通
	主任研究員	井上 伸
普及・森林教育課	主幹兼課長代理	本田 美香
	主 査	角屋 圭祐
アカデミー運営課	副参事兼課長	北出 満
	主幹兼課長代理	前田 英己
	主 査	辻本 秀人

II 事業の概要

1. 当初予算の概要

(単位：千円)

項 目	予算額	財 源 内 訳		
		県 費	国 費	その他
農林水産業費 林業費 林業試験研究費 林業試験研究管理費	70,204	33,479		36,725
農林水産業費 林業費 林業試験研究費 林業技術開発推進費	6,688		988	5,700
農林水産業費 林業費 林業総務費 みえ森林・林業アカデミー運営事業費	45,012			45,012
農林水産業費 林業費 林業振興指導費 林業普及指導事業費	6,254	290	5,964	
農林水産業費 林業費 緑化対策費 森を育む人づくり推進事業費	77,041			77,041
農林水産業費 林業費 造林費 災害に強い森林づくり推進事業費	10,830			10,830
農林水産業費 林業費 森林振興指導費 林業・木材産業構造改革事業費 (優良種苗確保事業)	147	127		20
農林水産業費 林業費 森林病虫害防除費 森林病虫害防除費	65	65		
農林水産業費 林業費 森林総務費 新たな森林経営管理体制支援事業費	10,350			10,350
農林水産業費 林業費 野生生物共生費 野生生物保護事業費 (クビアカツヤカミキリ被害防除効果調査)	243			243
合 計	226,834	33,961	6,952	185,921

2. 事業の内容

(1) 林業試験研究管理

林業研究所の庁舎及び研究施設・設備の維持管理や、会計年度任用職員の報酬及び社会保険料の支出、研究用資機材の調達など適切な管理運営を行う。また、林業研究所で行う試験研究に対する評価を行う研究評価委員会を開催する。

(2) 技術開発事業

① 農林業における獣害防止に向けた捕獲技術の実証研究

農業及び林業に被害を及ぼすニホンジカ等の野生動物を対象に、効率的・効果的な誘引方法や捕獲方法を開発する。

② ICT を活用した植栽地へのシカ侵入検知システムの開発

シカによる植栽苗木の採食被害を軽減するため、遠隔で植栽地内へのシカの侵入を通知するシステムの開発を行う。

(3) みえ森林・林業アカデミー運営事業

みえ森林・林業アカデミーにおいて、主に既就業者を対象とした基本コースのほか、今後の森林整備の推進に重要な役割を果たす市町職員向けの講座などを実施する。

また、県内で唯一、森林・林業に関するコースを設置する久居農林高校生徒を対象とした林業の学習機会の提供のほか、中大規模木造建築物等の設計講座など、専門的、実践的な知識、技術向上を集中的に行う選択講座の運営を行う。

① アカデミー講座運営事業

職場で担う役割に応じた基本3コース（ディレクター育成コース、マネージャー育成コース、プレーヤー育成コース）、市町職員を対象とした講座、専門的、実践的な知識、技術向上を集中的に行う選択講座などの運営を行うとともに、次年度の運営計画の立案（カリキュラム作成、講師人選、募集要項等）等を実施する。

また、選択講座においては、森林 GIS やドローン等を活用した森林調査、高所での特殊伐採の技術を学ぶ講座のほか、中大規模建築や非住宅等の木造設計を行える建築士育成のための建築士や建築学科等の高校生等を対象とした林業・木材産業・木造施設の現場体験・見学会などの研修会を実施する。

② アカデミー講師育成・講座ブラッシュアップ事業

アカデミー講座の一部を担える講師人材を育成することを目的に、伐木業務の特別教育、刈り払い業務の安全衛生教育などの講座受講や研修会への参加等を促進し、得られた知識、技術などを活用して講師を務め、アカデミー講座等へ反映する。

また、カリキュラムのブラッシュアップを目的に、調査、研究（大学等との共同研究を

含む)を実施するとともに、得られた知見等を講座に反映する。

i スギ大断面材の効率的な乾燥技術の開発

戦後植林された人工林の高齢級化が進み、市場に出回るようになったスギ大径材の利用拡大に向け、公共福祉施設や公共教育施設など、中大規模の非住宅建築物を対象とした材色変化や割れの少ない乾燥技術を開発する。

ii 地域に適した新植地の獣害防除法の開発

シカ防護柵の設置方法について、地形や気象条件、生息密度等を考慮し、被害リスクに応じた適切な防護柵の仕様を明らかにする。

iii 高品質・低コストなコンテナ苗の生産手法の開発

スギおよびヒノキのコンテナ苗生産において、苗の品質を向上させ、かつ育苗コストが低くなる育苗方法や容器を明らかにするとともに、植栽試験によって、植栽後の成長が良いコンテナ苗の条件を明らかにする。

(4) 普及指導事業活動事業

①地域運営

森林所有者等に対して林業技術や知識を普及する際に必要となる情報の収集・整理などを通じて、きめ細やかな普及・指導を行うとともに、活動に必要な資器材の整備等を行う。

② 普及研修・巡回指導

林業普及指導員が、森林所有者等に対して、林業に関する技術及び知識を普及するほか、森林施業に関する指導等を行う。また、林業普及指導員の資質向上を目的に、研修等への参加や、スキルアップのための研修を実施する。

③ 普及情報システム化

i 生産性向上を目的とした作業日報入力支援ツールの開発

三重県内の林業事業体における作業日報の活用実態を把握するとともに、生産性向上を目的とする工程管理に適した作業日報のモデル様式と、その入力分析を支援するツールを開発する。

ii UAV-SfM を利用した造林初期のモニタリング手法の開発

ドローン空撮画像から SfM 解析により得られたデータを用いて、造林初期の植栽苗木の本数、生死、成長などをモニタリングするための技術を開発する。

iii 三重県におけるコウヨウザンの育成技術の開発

林地に植栽したコウヨウザンの初期成長量と地形および気候との関係を明らかにすることで、三重県においてコウヨウザンの造林が有益となる条件を検討する。あわせて高品質な苗を生産する技術を開発する。

iv ウスヒラタケ選抜株の栽培特性調査と現場ニーズに応じた栽培技術の開発

当研究所で選抜したウスヒラタケ野生株について、品種登録審査基準に基づく特性調査

等を行うとともに、省力的にウスヒラタケ生産が可能となる栽培技術を開発する。

V スギ未利用材等を利用したきのこ栽培技術の開発

現在不足しているシイタケ菌床用の広葉樹おが粉に代わる、新しい培地基材を探索し生産の安定とコストダウンを図る。また、シイタケ以外にもハナビラタケ等特殊な培地基材を用いるきのこについて安価で効果の高い培地基材を探索する。

(6) 森を育む人づくりサポート体制整備事業

① みえ森林教育ビジョン推進

みえ森林教育ビジョンを実現するため、年代別の森林教育プログラムの作成、子どもから大学生、企業向けの講座、小学生向けの森林教育ワークブックの作成、子どもたちの健全な心身の育成と森林・林業に関する職業意識の醸成を図るため、子どもたちが仲間と共に主体的に学ぶプログラムを実践するための森林教育の指導者養成、小学5年生社会科教科書の項目「森林資源の働き」に対応した森林教育副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」の作成、みえ森林教育を広く普及するための森林教育シンポジウムの開催などを行う。また、森林の働きや林業、木材利用に対する県民の意識調査を実施する。

② 森づくりサポートセンター運営

森林教育や森づくり活動にかかる総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を運営し、森林教育指導者や森づくり技術者の育成を行うほか、きめ細かい各種相談対応など、広域的・総合的なサポートを行う。

③ みえ森林教育ステーション整備

三重県民の森に整備した常設型の木製遊具や玩具に触れ合える森林教育ステーションの運営を行うとともに、林業研究所に野外における森林教育フィールドを整備する。

また、木製遊具や玩具に触れ合える常設型の森林教育ステーションの認定を行う。

(7) 災害に強い森林づくり推進事業（事業効果検証に係る調査・研究事業）

「みえ森と緑の県民税」を財源とした「災害に強い森林づくり推進事業」の一環として行われている「災害緩衝林整備事業」において、事業実施効果の検証を目的として下記の調査を実施する。

① 樹木根系による斜面安定効果調査

山腹部における調整伐の崩壊防止力に及ぼす効果を検証するために、事業実施地等において根系分布調査と根引き抜き試験を行い、崩壊防止力を明らかにする。

② UAVを用いた森林モニタリング調査

調整伐による立木の肥大成長促進や健全性向上の効果を検証するために、UAVにより事業実施地における調整伐後の森林状態をモニタリングする。

③ 整備森林における危険木発生状況調査

溪流部における危険木除去の効果を検証するために、事業実施溪流における豪雨後の倒・流木発生状況の調査等を行う。

(8) 優良種苗確保事業(林木育種事業)

県内で選抜された精英樹クローン等により造成された採種園と県内外の精英樹、在来クローン等を集植した原種採穂園の管理を行っている。また、平成 26 年度から造成しているスギ、ヒノキの特定母樹によるミニチュア採種園等の育成管理を行うとともに、少花粉スギ等の種子採取を実施する。

採種園・採穂園の概況

令和 5 年 3 月

区 分	採種園 (ha)	採穂園 (ha)
スギ精英樹	0.45	0.46
スギ特定母樹	0.24 (※)	
少花粉スギ	0.06 (※)	—
ヒノキ精英樹	7.37	0.21
ヒノキ特定母樹	0.39 (※)	—
マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ	0.85	—
計	9.36	0.67

※ ミニチュア採種園

(9) 森林病虫害等防除事業(マツノマダラカミキリ発生予察事業等)

マツクイムシ被害防除のための殺虫剤予防散布時期をよりの確に把握するため、県内 2 カ所のマツ林から、マツノマダラカミキリ寄生木を採取し、4 月下旬から成虫脱出日まで割材して幼虫の生育状況を調査し、成虫脱出後 7 月中旬までは成虫の脱出消長を調査する。

(10) 少花粉種子・苗木の増産体制の確立

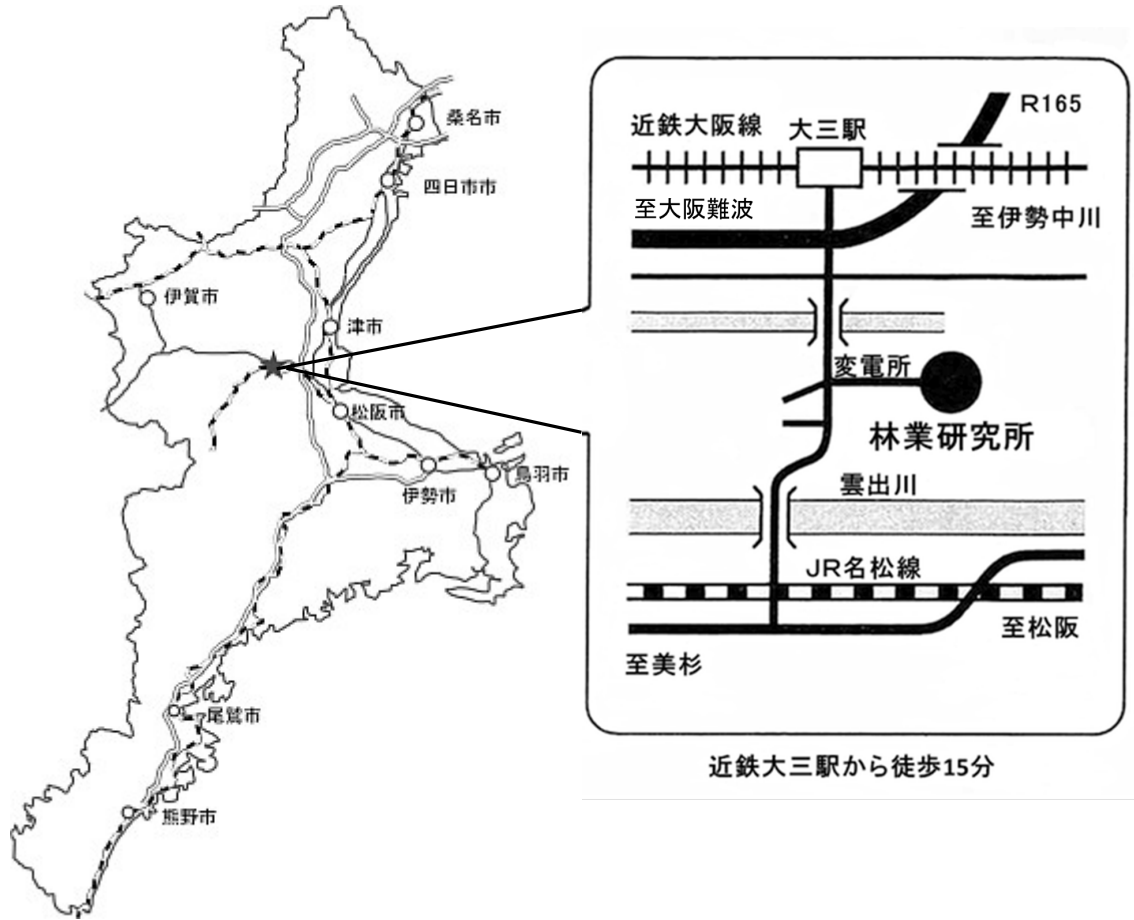
スギ特定母樹およびヒノキ特定母樹等の花粉症対策品種の安定的供給を目的とし、採種園の造成、管理および採種を行う。あわせて、県内の認定特定増殖事業者への指導を行い、県内の花粉症対策苗木の増産体制の整備に資する。

(11) クビアカツヤカミキリ被害防除効果調査

新たにクビアカツヤカミキリ被害が確認された三重県北部の被害地における被害防除対策の効果検証および、被害地におけるモニタリング調査を実施する。

III 位置及び施設

1. 位置図



2. 構内配置図





令和5年（2023年）4月発行

令和5年度業務概要

発行 三重県林業研究所

〒515-2602 三重県津市白山町二本木 3769-1
TEL : 059-262-0110
FAX : 059-262-0960
E-mail : ringi@pref.mie.lg.jp
<http://www.pref.mie.lg.jp/ringi/hp/index.htm>